

10月1日

駅構内に響く名曲が来訪者を迎える

イベント



本市出身のミュージシャン大瀧詠一さんの「君は天然色」が、JR水沢江刺駅の発車メロディーになりました。メロディーは上りがサビ部分、下りがAメロ部分を導入。一日駅長を務めた大瀧詠一応援団の石川悦哉団長は「このメロディーが駅の利用促進と地域発展のきっかけになれば」と笑顔で語りました。

10月1日

齋藤まきさん 100歳
(水沢神明町)

百歳



青森県弘前市で一人娘として生まれ、21歳で故・一郎さんと結婚。1男3女をもうけ、孫5人、ひ孫2人に恵まれています。50歳ごろまで仲居として働いていたため足腰が丈夫だというまきさん。「今こうして幸せに過ごせているのも息子夫婦のおかげです」と笑顔で感謝の気持ちを語りました。

10月2日

後期計画策定に向けて始動

市政



市は、2年度第1回奥州市総合計画審議会を開催しました。2年の任期で委員21人（男11人、女10人）を委嘱。審議会の役割などを確認しました。今後、総合計画基本計画に係る前期計画の行政評価に対する意見を本年度中に取りまとめ、来年度は後期計画（4～8年度）の策定に向けた審議を行います。

10月3日

鈴木タカコさん 100歳
(前沢白山)

百歳



一関市室根町で生まれ、28歳で故・静さんと結婚。1男1女をもうけ、孫4人、ひ孫4人に恵まれています。新聞を読むのが日課。「何でも食べて、どこに行くのも歩いたのが良かったんだと思う」と長寿の秘訣を語り、「コロナ禍が収まって、東京の長男に会える日を楽しみに頑張りたい」と笑顔を見せました。

10月11日

春の思いを秋に咲かす
前沢秋まつりを開催

イベント



前沢春まつりの代替イベントとなる奥州前沢秋まつりが、感染症対策を行った上で開かれました。前沢42歳厄年連結夢輝と前沢25歳厄年連結烈伝が、参加できなかった会員の思いや感謝の気持ちを胸に、情熱あふれる演舞を披露。待望の祭りに出演者が感極まる場面もあり、心を打つ素晴らしい祭りとなりました。



10月14日

企業と大学がつながるきっかけに

イベント



市は、岩手大学との共催で、ものづくり企業の技術力・経営力向上を目的とした「地域企業×岩手大学×奥州連携フォーラム」を開催し、約40社が参加しました。講演では岩手大学と市内鋳物産業との連携を紹介。市内企業との共同研究の先進事例発表も行い、参加者は具体的な産学連携の方法に理解を深めました。

10月20日

市産食材を応援する小売店を認定

市政



市は、地産地消を推進するため、市産食材を取り扱う産直施設や小売店を「おうしゅう“まるかじり”応援の店」として認定する取り組みを新たに始めました。認定された17事業所は、毎月第4土曜日の「おうしゅうまるかじりの日」やInstagramなどと連動し、市産食材を積極的に販売・PRしていきます。

10月21日

災害時の物資供給で協定

市政



市は、鎌田段ボール工業(株)（鎌田卓也代表取締役社長）と「災害時における物資供給に関する協定調印」を締結しました。災害発生時、避難所に簡易ベッドや間仕切りを提供。感染症拡大防止やプライバシーの保護を図ります。鎌田社長は、「万が一の時は快適な暮らしが送れるよう物資を提供したい」と話しました。

10月24日

若手の熱意受け
前沢小劇場が開幕

イベント



初開催となる奥州前沢小劇場公演が前沢ふれあいセンターで開かれ、3演目が上演されました。奥州前沢劇場の人材育成や新人発掘を目的に、若手参加者の声で企画されたものです。全員20代で上演された「もう一度、あの夏を」では、出演者が切ない青春物語を演じ切り、来場者を物語の世界へ引き込んでいました。

10月25日

ひと夏の思い出を秋に
遊びリンピックを開催

イベント



ジュニアリーダーが企画する“遊びリンピック”が水沢体育館で開かれました。今夏、寺子屋が中止となってしまった寺子屋リーダーたちに、活躍の場を提供しようと企画されたものです。リーダーたちは、自分たちで考えた新聞じゃんけんなど3種目を行い、参加した児童と一緒に楽しいひとときを過ごしました。

10月26日

地域に根差した防犯活動が評価

イベント



常盤地区防犯協会（藤原正美会長）は長年の防犯活動が評価され、安全安心なまちづくり関係功労者内閣総理大臣表彰を受賞しました。ハンドベルを鳴らし地域巡回する「リンリンパトロール」などを地域住民と共に行ってきた同協会。会長の藤原さんは「今後も地域に根差した活動を続ける」と語りました。